

令和5年度かわさきパラムーブメント意識調査 結果

(1) 調査概要

かわさきパラムーブメント全体及び「多様性と社会的包摂に関するレガシー」として
いる7つのレガシーの現状を把握するためにかわさきパラムーブメントに係る意識
調査をアンケートにより実施

(2) 実施日

令和5年12月1日（金）から令和5年12月26日（火）まで

(3) 対象者

ア 市民

市民のうちインターネットアンケートサイトに登録している1,000名を対象(市内在
住のアンケートサイト登録者数約34,500人を対象として実施し、統計として必要十分
な1,000件の回答があった時点で回答を締め切り)

イ 障害当事者

障害者手帳等を所持している方から無作為に抽出した身体障害者手帳（120名）、療
育手帳（36名）、精神障害者保健福祉手帳（44名）の計200名程度を対象

ウ 市立中学校の2年生（レガシー1のみ）

令和3年度に中学2年生を対象としてアンケートを実施しており、引き続き市立中
学校2年生（9,900名程度）を対象

(4) アンケートの回答状況

ア 市民（インターネットアンケート）

回答：1,000名（うち障害手帳所持者 50名）

（内訳）

回答者	人数
障害者手帳所持なし ※答えたくない、わからない含む	950名
身体障害者手帳	15名
療育手帳	2名
精神障害者保健福祉手帳	30名
身体障害者手帳・療育手帳	0名
身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳	0名
3手帳所持	1名
答えたくない ※手帳を持っていると回答	2名

【参考・R4 内訳】

回答：1,000 名（うち障害手帳所持者 43 名）

回答者	人数
障害者手帳所持なし ※答えたくない、わからない含む	957 名
身体障害者手帳	18 名
療育手帳	2 名
精神障害者保健福祉手帳	19 名
身体障害者手帳・療育手帳	1 名
身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳	1 名
3 手帳所持	1 名
わからない（手帳所持と回答）	1 名

イ 障害当事者アンケート

回答：60 名

（手帳所持者内訳）

手帳種類	人数
身体障害者手帳	34 名
療育手帳	9 名
精神障害者保健福祉手帳	15 名
療育・精神障害者保健福祉手帳	1 名
答えたくない	1 名

【参考・R4 内訳】

回答：44 名

（手帳所持者内訳）

手帳種類	人数
身体障害者手帳	20 名
療育手帳	11 名
精神障害者保健福祉手帳	10 名
身体障害者手帳・療育手帳	3 名

ウ 中学生向けアンケート

回答：4,984 名（別紙参照）

(5) アンケート調査の結果

ア 障害の社会モデルとかわさきパラムーブメント

設 問：「障害の社会モデル」という考え方を知っていますか。

結 果：前年調査に比べ、認知度（知っている及び言葉だけ知っている）は2.8ポイント減少し、悪くなっている。（28.9%⇒26.1%）

回答	人数	割合	前年比
知っている	91名	8.6%	▲2.0%
言葉だけ知っている	185名	17.5%	▲0.8%
知らない	784名	74.0%	+2.9%
合計	1,060名	100.0%	

【参考・R4 内訳】

回答	人数	割合
知っている	111名	10.6%
言葉だけ知っている	191名	18.3%
知らない	742名	71.1%
合計	1,044名	100.0%

設 問：かわさきパラムーブメントについて知っていますか。

結 果：前年調査に比べ、認知度（内容も知っている及び名前だけ聞いたことがある）に変化はない。（14.8%⇒14.8%）

回答	人数	割合	前年比
内容も知っている	31名	2.9%	▲0.1%
名前だけ聞いたことがある	126名	11.9%	+0.1%
知らない	903名	85.2%	0.0%
合計	1,060名	100.0%	

【参考・R4 内訳】

回答	人数	割合
内容も知っている	31名	3.0%
名前だけ聞いたことがある	123名	11.8%
知らない	890名	85.2%
合計	1,044名	100.0%

設 問：「かわさきパラムーブメントのロゴ」を見たことがありますか。

結 果：前年調査に比べ、認知度は 0.4 ポイント上昇している。

(14.4%⇒14.8%)

回答	人数	割合	前年比
ある	157 名	14.8%	+0.4%
ない	903 名	85.2%	▲0.4%
合計	1,060 名	100.0%	

【参考・R4 内訳】

回答	人数	割合
ある	150 名	14.4%
ない	894 名	85.6%
合計	1,044 名	100.0%

イ パラムーブメント全体（総合計画の指標）

現 状：生活する上で、あなた自身はバリア（障壁）を感じている人の割合

設 問：「生活する上で、あなた自身はバリア（障壁）を感じますか。」という質問にはいと回答した割合

結 果：前年調査に比べ、0.7ポイント減少し良くなっている。
(22.2%⇒21.5%)

(内訳)

回答者	人数	割合	前年比
手帳を所持していない人（950名）	172名	18.1%	▲0.6%
手帳所持者（110名）	56名	50.9%	▲10.0%
合計(1060名のうち228名が『はい』と回答)	228名	21.5%	▲0.7%

(バリアを感じる要因) ※『はい』と答えた228名が複数回答

	人数	割合
街中で移動をするとき	127名	19.3%
施設を利用するとき	105名	15.9%
公共交通機関を利用するとき	98名	14.9%
ホームページやチラシなどから必要な情報を入力しようとするとき	33名	5.0%
社会的マイノリティであることで不当な扱いをされるとき	40名	6.1%
困った時に周囲に気軽に助けを求めることができないとき	63名	9.6%
周囲とコミュニケーションをとるとき	55名	8.3%
就労を通じて社会に参加をするとき	45名	6.8%
地域の活動に参加するとき	19名	2.9%
文化・芸術やスポーツに関わる活動に参加するとき	20名	3.0%
学校や職場で、必要な配慮がされていないとき	46名	7.0%
その他	8名	1.2%
合計	659名	100.0%

【参考・R4内訳】

回答者	人数	割合
手帳を所持していない人（957名）	179名	18.7%
手帳所持者（87名）	53名	60.9%
合計	232名	22.2%

ウ 各レガシーについて

【レガシー1 多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち】

現状①：相手の立場になって、物事を考え行動することのできる中学生の割合

設 問：「困っている人を見かけた場合、自分から積極的に声をかける・手助けするなど、行動することはできますか。」という質問にできると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、0.1ポイントの減少で横ばいの状況となっている。
(46.3%⇒46.2%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
できる	2,303名	46.2%	▲0.1%
困っている人から声をかけられたらできる	2,141名	43.0%	▲0.7%
できない	540名	10.8%	+0.8%
合計	4,984名	100.0%	

【参考・R4内訳】

回答	人数	割合
できる	1,695名	46.3%
困っている人から声をかけられたらできる	1,600名	43.7%
できない	366名	10.0%
合計	3,661名	100.0%

現状②：心のバリアフリーが子どもたちに浸透していると思った人の割合

設 問：「子どもたちに心のバリアフリーの考え方が浸透してきていると思いますか」という質問に浸透していると思う、ある程度浸透していると思うと回答した割合

結 果：前年調査に比べ、0.3ポイント減少し、ほぼ横ばいの状況となっている。
(25.0%⇒24.7%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
浸透していると思う	24名	2.3%	▲0.6%
ある程度浸透していると思う	237名	22.4%	+0.3%
あまり浸透していないと思う	340名	32.1%	▲0.9%
浸透していないと思う	160名	15.1%	▲0.1%
わからない	299名	28.2%	+1.4%
合計	1060名	100.0%	

【参考・R4 内訳】

回答	人数	割合
浸透していると思う	30 名	2.9%
ある程度浸透していると思う	231 名	22.1%
あまり浸透していないと思う	344 名	33.0%
浸透していないと思う	159 名	15.2%
わからない	280 名	26.8%
合計	1044 名	100.0%

【レガシー2 心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～】

現状①：自分とは違う他人を思いやることができる人の割合

設 問：「あなたは、日頃から相手の立場になって、その人の気持ちになって考えることを心がけていますか。」という質問に心がけている、やや心がけていると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、1.8ポイント減少し、悪くなっている。
(69.1%⇒67.3%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
心がけている	201名	19.0%	▲0.2%
やや心がけている	512名	48.3%	▲1.6%
あまり心がけていない	222名	20.9%	+0.1%
心がけていない	125名	11.8%	+1.6%
合計	1,060名	100.0%	

【参考・R4内訳】

回答	人数	割合
心がけている	200名	19.2%
やや心がけている	521名	49.9%
あまり心がけていない	217名	20.8%
心がけていない	106名	10.2%
合計	1,044名	100.0%

現状②：心のバリアフリーを体現することのできる人の割合

設 問：「街中で誰かが困っている場面を見たことがある」と回答した577名のうち「自発的に助けた」及び「自発的に助けようとしたが、遠慮された、または断られた」と回答した割合

結 果：前年調査に比べ、3.0ポイント減少し、悪くなっている。
(67.9%⇒64.9%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
自発的に助けた	286名	49.6%	▲1.9%
自発的に助けようとしたが、遠慮された、または断られた	88名	15.3%	▲1.1%
声をかけられたので助けた	90名	15.6%	+1.1%
助けなかった	113名	19.6%	+2.0%
合計	577名	100.0%	

【参考・R4 内訳】

回答	人数	割合
自発的に助けた	295 名	51.5%
自発的に助けようとしたが、遠慮された、または断られた	94 名	16.4%
声をかけられたので助けた	83 名	14.5%
助けなかった	101 名	17.6%
合計	573 名	100.0%

【レガシー3 社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～】

現状①：ハードのバリアがあると感じている人の割合

設 問：「あなたが普段生活する場で、バリア（障壁）があると感じますか」という質問に「職場・学校」、「買物する場所」、「公共交通機関」、「普段通る道」にそれぞれバリアを感じる、ある程度感じると回答した割合（複数回答あり）

結 果：前年調査に比べ、2.7ポイント減少し、良くなっている。
(30.8%⇒28.1%)

(内訳)

	職場・学校		買物場所		公共交通機関		普段通る道		総計		前年比
	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%	
感じる	89名	8.4%	73名	6.9%	95名	9.0%	127名	12.0%	384名	9.1%	+0.6%
ある程度感じる	118名	11.1%	190名	17.9%	255名	24.1%	241名	22.7%	804名	19.0%	▲3.3%
あまり感じない	192名	18.1%	298名	28.1%	245名	23.1%	247名	23.3%	982名	23.2%	+2.4%
感じない	252名	23.8%	284名	26.8%	245名	23.1%	232名	21.9%	1,013名	23.9%	▲0.8%
利用しない	276名	26.0%	91名	8.6%	97名	9.2%	88名	8.3%	552名	13.0%	+0.9%
わからない	133名	12.5%	124名	11.7%	123名	11.6%	125名	11.8%	505名	11.9%	+0.4%
合計	1,060名	100.0%	1,060名	100.0%	1,060名	100.0%	1,060名	100.0%	4,240名	100.0%	

【参考・R4内訳】

	職場・学校		買物場所		公共交通機関		普段通る道		総計	
	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%
感じる	69名	6.6%	67名	6.4%	97名	9.3%	122名	11.7%	355名	8.5%
ある程度感じる	137名	13.1%	236名	22.6%	285名	27.3%	274名	26.2%	932名	22.3%
あまり感じない	180名	17.2%	262名	25.1%	221名	21.2%	207名	19.8%	870名	20.8%
感じない	250名	23.9%	281名	26.9%	244名	23.4%	256名	24.5%	1031名	24.7%
利用しない	138名	13.2%	133名	12.7%	120名	11.5%	116名	11.1%	507名	12.1%
わからない	270名	25.9%	65名	6.2%	77名	7.4%	69名	6.6%	481名	11.5%
合計	1044	100.0%	1044	100.0%	1044	100.0%	1044	100.0%	4176	100.0%

現状②：社会的マイノリティにとって、ハードのバリアがあると感じている人の割合

設 問：「あなたが普段生活する場で、社会的マイノリティにとってバリア（障壁）があると感じますか」という質問に「職場・学校」、「買物する場所」、「公共交通機関」、「普段通る道」にそれぞれバリアを感じる、ある程度感じると回答した割合（複数回答あり）

結 果：前年調査に比べ、2.5ポイント減少し、良くなっている。
(34.0%⇒31.5%)

(内訳)

	職場・学校		買物場所		公共交通機関		普段通る道		総計		前年比
	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%	
感じる	95名	9.0%	84名	7.9%	105名	9.9%	143名	13.5%	427名	10.1%	+0.6%
ある程度感じる	152名	14.3%	224名	21.1%	275名	25.9%	255名	24.1%	906名	21.4%	▲3.1%
あまり感じない	190名	17.9%	290名	27.4%	243名	22.9%	220名	20.8%	943名	22.2%	+0.2%
感じない	198名	18.7%	210名	19.8%	188名	17.7%	188名	17.7%	784名	18.5%	+0.3%
利用しない	264名	24.9%	85名	8.0%	89名	8.4%	85名	8.0%	523名	12.3%	▲2.2%
わからない	161名	15.2%	167名	15.8%	160名	15.1%	169名	15.9%	657名	15.5%	+4.1%
合計	1,060名	100.0%	1,060名	100.0%	1,060名	100.0%	1,060名	100.0%	4,240名	100.0%	

【参考・R4内訳】

	職場・学校		買物場所		公共交通機関		普段通る道		総計	
	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%
感じる	82名	7.9%	80名	7.7%	110名	10.5%	124名	11.9%	396名	9.5%
ある程度感じる	155名	14.8%	262名	25.1%	307名	29.4%	300名	28.7%	1024名	24.5%
あまり感じない	196名	18.8%	277名	26.5%	229名	21.9%	215名	20.6%	917名	22.0%
感じない	189名	18.1%	200名	19.2%	177名	17.0%	192名	18.4%	758名	18.2%
利用しない	149名	14.3%	159名	15.2%	148名	14.2%	148名	14.2%	604名	14.5%
わからない	273名	26.1%	66名	6.3%	73名	7.0%	65名	6.2%	477名	11.4%
合計	1044名	100.0%	1044名	100.0%	1044名	100.0%	1044名	100.0%	4176名	100.0%

【レガシー4 誰もがスポーツ・運動に親しんでいるまち】

現状①：スポーツをする、みる、支える上でバリアを感じている人の割合

設 問：スポーツに関心のあると答えた549名のうち「あなた自身がスポーツをしたり、観戦したり、支えたり（スポーツボランティア活動など）しようとした時に何かしらのバリア（障壁）を感じますか。」という質問に感じると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、2.1ポイント減少し、良くなっている。
(39.4%⇒37.3%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
感じる	205名	37.3%	▲2.1%
感じない	344名	62.7%	+2.1%
合計	549名	100.0%	

【参考・R4内訳】

回答	人数	割合
感じる	207名	39.4%
感じない	318名	60.6%
合計	525名	100%

現状②：社会的マイノリティがスポーツをする、みる、支える際にバリアがあると感じている人の割合

設 問：「社会的マイノリティの方がスポーツをしたり、観戦したり、支えたり（スポーツボランティア活動など）しようとした時に何かしらのバリア（障壁）を感じるがあると思いますか」という質問にあると思うと回答した割合

結 果：前年調査に比べ、5.3ポイント減少し、良くなっている。
(64.1%⇒58.8%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
あると思う	623名	58.8%	▲5.3%
ないと思う	437名	41.2%	+5.3%
合計	1060名	100.0%	

【参考・R4内訳】

回答	人数	割合
あると思う	669名	64.1%
ないと思う	375名	35.9%
合計	1044名	100.0%

【レガシー5 誰もが文化芸術に親しんでいるまち】

現状①：文化芸術に携わる、鑑賞する際にバリアを感じている人の割合

設 問：文化芸術に関心のあると答えた438名のうち「絵画、写真といったアート作品や音楽、演劇などを鑑賞したり、自ら表現しようとした時に何かしらのバリア（障壁）を感じますか。」という質問に感じると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、2.4ポイント減少し、良くなっている。

(36.9%⇒34.5%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
感じる	151名	34.5%	▲2.4%
感じない	287名	65.5%	+2.4%
合計	438名	100.0%	

【参考・R4内訳】

回答	人数	割合
感じる	171名	36.9%
感じない	292名	63.1%
合計	463名	100.0%

現状②：社会的マイノリティが文化芸術に携わる、鑑賞する際にバリアがあると感じている人の割合

設 問：「社会的マイノリティの方が絵画、写真といったアート作品や音楽、演劇などを鑑賞したり、自ら表現しようとした時に何かしらのバリア（障壁）を感じることはあると思いますか」という質問にあると思うと回答した割合

結 果：前年調査に比べ、3.5ポイント減少し、良くなっている。

(50.5%⇒47.0%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
あると思う	498名	47.0%	▲3.5%
ないと思う	562名	53.0%	+3.5%
合計	1060名	100.0%	

【参考・R4内訳】

回答	人数	割合
あると思う	527名	50.5%
ないと思う	517名	49.5%
合計	1044名	100.0%

【レガシー6 多様な主体が地域づくりに貢献しているまち】

現 状：地域活動に社会的マイノリティが参加している割合

設 問：地域活動に参加していると回答した133名の中で「その地域活動に社会的少数者（マイノリティ）の方（回答者含む）は参加していますか。」という質問に参加していると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、参加していると回答した人の割合は5.5ポイント上昇しているが、参加していないと回答した人の割合も7.1ポイント上昇しており、総体としては、大きな変化はない。

（参加している：32.1%⇒37.6%）

（参加していない：34.3%⇒41.4%）

（内訳）

回答	人数	割合	前年比
参加している	50名	37.6%	+5.5%
参加していない	55名	41.4%	+7.1%
わからない	28名	21.1%	▲12.5%
合計	133名	100%	

【参考・R4内訳】

回答	人数	割合
参加している	44名	32.1%
参加していない	47名	34.3%
わからない	46名	33.6%
合計	137名	100%

【レガシー7 誰もが職業等を通じて社会参加できる環境】

現 状：就労、趣味、自己研鑽の場に社会的マイノリティが参加している割合

設 問：仕事や趣味、また、生涯学習（カルチャースクールや市民館等での学習活動等）などをしていると回答した209名の中で「その活動に社会的少数者（マイノリティ）の方（回答者含む）は参加していますか。」という質問に参加していると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、参加していると回答した人の割合は2.1ポイント上昇しているが、参加していないと回答した人の割合も2.0ポイント上昇しており、総体としては、大きな変化はない。

（参加している：36.7%⇒38.8%）

（参加していない：40.6%⇒42.6%）

（内訳）

回答	人数	割合	前年比
参加している	81名	38.8%	+2.1%
参加していない	89名	42.6%	+2.0%
わからない	39名	18.7%	▲4.0%
合計	209名	100.0%	

【参考・R4内訳】

回答	人数	割合
参加している	94名	36.7%
参加していない	104名	40.6%
わからない	58名	22.7%
合計	256名	100.0%

